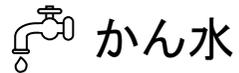


凡 例

生 育



管 理



ナシ

栽培型

栽培密度: 黒ボク土 20、灰色低地土 33本/10a

月・旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作型名	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地 平棚 2~4本主枝												
基準収量	幸水 2.5~3.0t、豊水・稲城 3.0~3.5t、新高 3.5t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壤	黒 ぼ く 土				
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	
施 肥 基 準	基肥	15	13	6	2,000
	追肥(1)	2	-	5	-
	追肥(2)	5	5	5	-
	計	22	18	16	2,000

土 壤	褐 色 森 林 土 また は 灰 色 低 地 土				
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	
施 肥 基 準	基肥	13	10	6	2,000
	追肥(1)	4.5	-	5	-
	追肥(2)	4.5	5	5	-
	計	22	15	16	2,000

施用上の留意事項

- ① 幸水は、追肥(2)を収穫直後に行うように努める。
- ② 新高は、追肥(2)を樹勢に応じて10~20%増肥する。
- ③ 深耕は、30~50cmの深さを目安に行う。
- ④ 深耕時、計画的に完熟堆肥を溝、穴など局所に施用する。
- ⑤ 収穫後は、土壌診断に従い、土壌改良資材を堆肥とともに施用する。
- ⑥ 適正pH6.0~6.5の維持に努める。
- ⑦ 稲城は、施肥量を基準より減肥する。
- ⑧ 発芽不良が心配される場合は、基肥時期を遅らせる。
(参考:ニホンナシ発芽不良対策マニュアル(農研機構))

ブドウ

栽培型

栽培密度: 8本/10a

月・旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作型名	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地												
基準収量	無核栽培大粒品種 1.5t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壌	黒 ぼ く 土			
施 肥 基 準	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
基肥	7	12	7	2,000
計	7	12	7	2,000

土 壌	褐 色 森 林 土 また は 灰 色 低 地 土			
施 肥 基 準	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
基肥	9	10	7	2,000
計	9	10	7	2,000

施用上の留意事項

- ① 強樹勢、花振り、着色不良の場合は、窒素肥料を減らす。
- ② 深耕は、30～50cmの深さを目安に行う。
- ③ 深耕時、計画的に完熟堆肥を溝、穴など局所に施用する。
- ④ 収穫後は、土壌診断に従い、土壌改良資材を堆肥とともに施用する。
- ⑤ 適正pH6.0～7.0の維持に努める。

カキ

栽培型

栽培密度: 30本/10a

月・旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作型名	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地												
低樹高仕立て (3.5m以下)												
基準収量	次郎 1.5~2.0t、富有 1.5~2.0t、東京紅 1.5~2.0t、太秋 1.5~2.0t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壤	黒 ぼ く 土			
施 肥 基 準	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
基肥	6	13	9	2,000
追肥(1)	5	-	2	-
追肥(2)	3	-	2	-
計	14	13	13	2,000

土 壤	褐 色 森 林 土 また は 灰 色 低 地 土			
施 肥 基 準	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
基肥	9	11	9	2,000
追肥(1)	5	-	2	-
追肥(2)	3	-	2	-
計	17	11	13	2,000

施用上の留意事項

- ① 堆肥は、溝、穴など局所施用を計画的に行う。
- ② 収穫後は、土壌診断に従い、土壌改良資材を堆肥とともに施用する。
- ③ 適正pH6.0~6.5の維持に努める。
- ④ 着色不良、熟期の遅れは、窒素量を調節する。

ウメ

栽培型

栽培密度: 20本/10a

月・旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作型名	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地 開心自然形 または 低樹高仕立て (3.5m以下)												
基準収量	白加賀 1.5t、玉英 1.5t、梅郷 1.5t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壤	黒 ぼ け 土				
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	
施 肥	基肥	7	9	8	1,500
	追肥(1)	-	-	-	-
基 準	追肥(2)	5	-	4	-
	追肥(3)	5	4	-	-
	計	17	13	12	1,500

土 壤	褐色森林土または灰色低地土				
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	
施 肥	基肥	5	7	6	1,500
	追肥(1)	2	-	2	-
基 準	追肥(2)	5	-	4	-
	追肥(3)	5	4	-	-
	計	17	11	12	1,500

施用上の留意事項

- ① 堆肥は、溝、穴など局所施用を計画的に行う。
- ② 収穫後は、土壌診断に従い、土壌改良資材を堆肥ともに施用する。
- ③ 適正pH5.5~6.0の維持に努める。

クリ

栽培型

栽培密度: 30本/10a

月・旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作型名	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地			♀			♂						♂
低樹高仕立て (3.5m以下)	■	■							■	■		■
基準収量	国見 0.25~0.30t、筑波 0.25~0.30t、利平 0.25~0.30t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壤	黒 ぼ く 土			
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
施 肥 基 準	8	10	8	1,000
	6	-	4	-
	14	10	12	1,000

土 壤	褐 色 森 林 土 また は 灰 色 低 地 土			
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
施 肥 基 準	10	8	8	1,000
	4	-	2	-
	2	-	2	-
	16	8	12	1,000

施用上の留意事項

- ① 堆肥は、樹冠下に施用する。
- ② 収穫後は、土壌診断に従い、土壌改良資材を堆肥とともに施用する。
- ③ pH5.0~5.5維持に努める。
- ④ 収穫時の新梢長の目安を1.0~1.5mとし、窒素量を増減する。

キウイフルーツ

栽培型

栽培密度: 16本/10a

月・旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作型名	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地												
平棚 X字整枝												
基準収量	ハイワード 1.5~2.0t、東京ゴールド 1.5~2.0t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壤	黒 ぼ く 土				
施 肥 基 準		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
	基肥	9	7	7	1,000
	追肥(1)	3	-	3	-
	追肥(2)	3	5	3	-
	計	15	12	13	1,000

土 壤	褐色森林土または灰色低地土				
施 肥 基 準		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
	基肥	10	6	7	1,000
	追肥(1)	4	-	3	-
	追肥(2)	4	4	3	-
	計	18	10	13	1,000

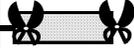
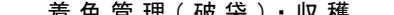
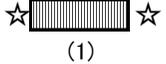
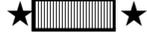
施用上の留意事項

- ① 強樹勢の場合は、窒素肥料を減らす。
- ② 収穫後は、土壌診断に従い、土壌改良資材を堆肥とともに施用する。
- ③ 適正pH6.0~7.0の維持に努める。
- ④ 堆肥は、樹冠下、株元などにマルチ資材として施用する。
- ⑤ 雄株は、施肥対象株とみなさない。

リンゴ

栽培型

栽培密度: 50本/10a

月・旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作型名	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地												
わい化栽培												
トレリス												
基準収量	つがる 2.5~3.0t、千秋 2.5~3.0t、陽光 2.5~3.0t、ふじ 2.5~3.0t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壤	黒 ぼ く 土				土 壤	褐 色 森 林 土 また は 灰 色 低 地 土				
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	
施 肥 基 準	基肥	5	7	4	2,000	基肥	6	6	4	2,000
	追肥(1)	3	-	3	-	追肥(1)	4	-	3	-
	追肥(2)	2	-	-	-	追肥(2)	2	-	-	-
	計	10	7	7	2,000	計	12	6	7	2,000

施用上の留意事項

- ① つがるは、追肥(2)を収穫直後に行うよう努める。
- ② ふじは、樹勢が強い場合は、追肥(2)を行わない。
- ③ 堆肥は、溝、穴など局所施用を計画的に行うよう努める。
- ④ 収穫後は、土壌診断に従い、土壌改良資材を堆肥とともに施用する。
- ⑤ 適正pH6.0~6.5の維持に努める。
- ⑥ 黒ボク土の追肥(2)は、新梢の生育状態から施肥の有無を判断する。
- ⑦ 深耕は、40~60cmを目安に計画的に行う。

ブルーベリー

栽培型

栽培密度: 100本/10a

月・旬 作型名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地 ハイブッシュ系					☆ (1)			かん水				
露地 ラビットアイ系					☆ (1)			かん水				
基準収量	ハイブッシュ系品種 0.4~0.5t、ラビットアイ系品種 0.6~1.0t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壤	黒 ぼ く 土				
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	
施 肥 基 準	基肥	4	5	4	1,500
	追肥(1)	1	-	1	-
	追肥(2)	2	1	1	-
	計	7	6	6	1,500

土 壤	褐 色 森 林 土 また は 灰 色 低 地 土				
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	
施 肥 基 準	基肥	5	4	4	1,500
	追肥(1)	1.5	0	1	-
	追肥(2)	1.5	1	1	-
	計	8	5	6	1,500

施用上の留意事項

- ① 施肥による濃度障害に弱いことに留意する。
- ② 堆肥、おがくず、チップなどでマルチし、乾燥防止に努める。
- ③ 適正pH5.0~5.5の維持に努める。

早生温州
栽培型

栽培密度: 75本/10a

月・旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作型名	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地												
基準収量	宮川早生 3t、興津早生 3t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壌	黒 ぼ け 土			
施 肥 基 準	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
春肥	4	14	3	2,000
夏肥	10	-	8	-
秋肥	6	-	5	-
計	20	14	16	2,000

土 壌	褐色森林土または灰色低地土			
施 肥 基 準	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
春肥	5	12	3	2,000
夏肥	12	-	8	-
秋肥	8	-	5	-
計	25	12	16	2,000

施用上の留意事項

- ① 堆肥は、1～3月に施用する。
- ② 収穫後は、土壌診断に従い、土壌改良資材を堆肥とともに施用する。
- ③ 適正pH6.0の維持に努める。

ユズ

栽培型

栽培密度: 40本/10a

月・旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作型名	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
基準収量	在来種 1.5t、多田錦 1.5t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壌	黒 ぼ け 土			
施 肥 基 準	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
春肥	6	7	6	2,000
夏肥	7	3	7	
初秋肥	7	8	7	
計	20	18	20	

土 壌	褐 色 森 林 土 また は 灰 色 低 地 土			
施 肥 基 準	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
春肥	7	7	7	2,000
夏肥	8	3	7	
初秋肥	7	7	7	
計	22	17	21	

施用上の留意事項

- ① 着果量によって夏肥・初秋肥施用量を調節する。
- ② 適正pH6.0の維持に努める。
- ③ 堆肥は11月までに施用する。

イチジク

栽培型

栽培密度: 50本/10a

月・旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作型名	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地												
低樹高仕立て												
基準収量	榊井ドーフィン 2.0t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壤	黒 ぼ く 土				土 壤	褐 色 森 林 土 また は 灰 色 低 地 土					
施 肥 基 準		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	施 肥 基 準		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
	基肥	6	5	5	1,000		基肥	7	4	5	1,000
	追肥(1)	4	3	4			追肥(1)	4	2	4	
	追肥(2)	2	2	3			追肥(2)	3	2	3	
	計	12	10	12	1,000		計	14	8	12	1,000

施用上の留意事項

- ① 強樹勢の場合は、窒素肥料を減らす。
- ② 収穫後は、土壌診断に従い、土壌改良資材を堆肥とともに施用する。
- ③ 中性～弱アルカリ性(pH7.0～7.5)の土壌で最も優れた生育を示す。
- ④ 根は浅根性なので乾燥に弱い、耐水性も弱く、土壌水分が多すぎると根が湿害を受ける。
- ⑤ いや地現象(連作障害)が激しいので、改植には注意が必要。

パッションフルーツ（小笠原・施設・電照）

栽培型

栽培密度：小笠原赤色土 167本/10a

月・旬 作型名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施設 電照平棚 3~4本主枝												
	☆ (2)	☆ (1)	☆ (2)	☆ (2)	☆ (1)				★	★	☆ (1)	☆ (2)
	灌水・整枝は常時											
基準収量	台農1号 2.3t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壌	赤 黄 色 土 (小 笠 原 赤 色 土)				
施 肥 基 準		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
	基肥	17	17	17	2,000
	追肥(1)	5	3.3	6.6	-
	追肥(2)	5	-	-	-
	計	52	27	37	2,000

施用上の留意事項

- ① 表中の追肥(1)、追肥(2)の施肥量は、1回あたりの量を示す

パッションフルーツ(小笠原・施設・非電照)

栽培型

栽培密度: 小笠原赤色土 167本/10a

月・旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作型名	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施設 非電照平棚 3~4本主枝												
基準収量	台農1号 2.0t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壌	赤 黄 色 土 (小 笠 原 赤 色 土)				
施 肥 基 準	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	
	基肥	17	17	17	2,000
	追肥(1)	5	3.3	6.6	-
	追肥(2)	5	-	-	-
	計	67	27	37	2,000

施用上の留意事項

- ① 表中の追肥(1)、追肥(2)の施肥量は、1回あたりの量を示す

レモン（小笠原・露地）

栽培型

栽培密度：80本/10a

月・旬 作型名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地 春開花 グリーンレモン		春枝 	春開花 	夏枝 					収穫 			
		春肥 	☆葉面散布☆ 	夏肥 	☆葉面散布☆ 				秋肥 			
	剪定 	春枝の整理 		夏枝の整理 			連続無降雨1週間～10日 のとき灌水 					剪定 
基準収量：	菊池レモン 6.3t											

対象土壌と施肥基準(kg/10a)

土 壌	赤 黄 色 土 (小 笠 原 赤 色 土)				
施 肥 基 準		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
	春肥	10	8	8	1,000
	夏肥	10	8	8	
	秋肥	10	8	8	
	計	30	24	24	

施用上の留意事項

- ① 2月上旬～3月上旬、4月下旬～6月下旬に、窒素主体の液肥(尿素500倍等)を1週間間隔で2～3回葉面散布する
- ② 強樹勢の時は秋肥を減らしてもよい